



2024年7月3日

日本鉄道労働組合連合会

医療連絡会 基幹労連・病院連絡会と交流

医療現場の見学と意見交換会を通じて 就労環境改善と労働条件向上に繋げる

JR連合は6月22日、日本基幹産業労働組合連合会（以下、基幹労連）・病院連絡会とJR連合・医療連絡会の交流会を開催した。基幹労連は鉄鋼、造船、非鉄金属などの関連産業が結集した産業別労働組合であるが、加盟組合には企業立病院も多く、医療現場の環境改善にも取り組んでいる。当日は、基幹労連から医療従事者・担当役員などがJR西日本・大阪鉄道病院に来訪。JR連合は担当役員、JR西労組の役員・組合員などが参加し、大阪鉄道病院の見学と意見交換を行った。



大阪鉄道病院では、参加者の職種毎に、一般病棟（看護師）、放射線科・薬剤部（放射線技師・薬剤師等）、検査科（臨床工学技士・臨床検査技師等）、リハビリ病棟（理学療法士等）に分かれて見学を実施。それぞれ大阪鉄道病院に勤めるJR西労組の役員・組合員が案内した。同一職種の医療現場を見学したことから、参加者からは様々な質問が寄せられるなど、有意義な時間となった。



その後は意見交換会を開催。見学中に聞けなかった疑問・質問をはじめ、事前に共有した各社・病院の労働条件などを基に、悩みの共有や事例紹介など、活発な意見交換が行われた。特に「育児休職・短時間勤務」「休日・宿直」「ペイシエント・ハラスメント対応」などには大きな関心が寄せられて大いに盛り上がったほか、福利厚生、院内保育、組合活動（レク活動の工夫）など、幅広いテーマで積極的に意見が交わされた。

まとめにあたり、基幹労連の綱島和彦中央副執行委員長は、「労働組合は現場の状況を把握して活動することが基本であり、今回の見学や意見交換で得た現場目線の知見を各組織でしっかりと発揮してほしい」と訴えて閉会した。

